

被服製作の基礎・基本と防災教育・エコの視点を重視した教材

「すくーとん」



京都府立洛北高等学校
教諭 竝川 幸子
なみかわ さちこ

「作って楽しい」「わかりやすい」「活用できる」そして、「防災教育」「エコの視点」を含めた被服教材、第2弾「すくーとん」について報告します。

1 はじめに

「すくーとん」の「すくー」は、『school』と命を『救う』をにかけて、「とん」は「ざぶとん」の意味を併せて「スクール用多機能ざぶとん」という意味をもっています。

日本は四季があり、四方を海に囲まれ、自然に恵まれた国です。しかしその一方で、天災にみまわれ、健康や命を奪われることがあるのも現実です。

そこで、万一の災害時に、頭巾や非常用持ち出しバックとして利用できる被服教材の企画・商品化を目指しました。

企画は越智ふき子氏。児童・生徒に常に災害を予防する「予防災」について意識して欲しい。製作を通して自然に、防災意識を身に付けることができ、また、万一の時には頭巾をかぶって落下物から、そして避難時には、その中に入れてある保温アルミシートやひざかけで体を暖めるなどして身体を守って欲しいという願いが込められています。

私は、その思いを受けて企業に働きかけ、被服教材の商品化に向けて動き出しました。

被服製作は、生徒の意欲を喚起し、製作手順はわかりやすく、そして出来上がった作品を活用できることが大切だと考えています。そんな被服教材を目指し、説明書から作り方・申込書まで越智氏や企業と協議を重ね完成に至りました。ここでは、その過程ではなく、教材の内容について説明します。

協力企業は、株式会社チクマ・明石被服興業株式会社・クロバー株式会社、そして監修は私です。

2 教材の特徴など



(1) 作りたい・作って楽しい教材

作品を見た瞬間に「作ってみたい」と製作意欲が湧くことは大切な視点です。

左に示す写真は洛北の「R」を中心に、エンブレムのように仕上げられています。ちょっと格好いいでしょう？！

このように、基本型にアップリケなどをつけてオリジナル作品を作るのは個性の表現、生徒にとって喜びでもあると思います。

完成後は、クラスで品評会を行い、互いに評価し合うとよいと思います。

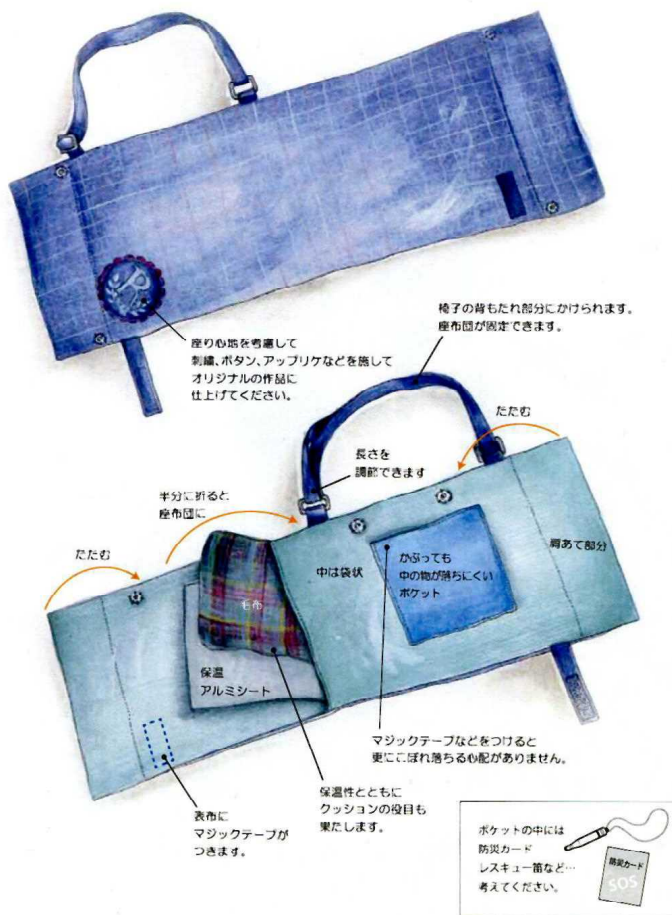
(2) 基本の被服技術の習得と理解しやすい作り方

直線縫いやスナップ付けなど、被服技術をマスターするとともに、生徒が作り方を見ながら理解し、製作を進められるようにわかりやすく解説しています。

(3) ざぶとんとしての活用

万一の災害時に頭巾として利用する他に、日頃は、ざぶとんとして活用できます。内側が袋状になっているので、ひざかけや保温アルミシートを入れることができ、それがざぶとんのクッション性にも繋がっています。

また、防災カードやレスキュー笛など必要な物をポケットに挿入でき、災害時の非常用持ち出しバックとしての役目も果たします。



(4) 学生服用の生地をリユース

制服生産段階で余った端生地^{はしきじ}や学校の制服のモデルチェンジによって使い道の無くなった生地を活用しています。内布に使っているのもシャツ生地の残反です。まさしくエコの視点を含めた被服教材です。被服製作とともに、エコの観点からも指導いただけます。

3 本校での実践

本教材「すくーとん」は平成 25 年 1 月に出来上がりました。家庭科教材選択の一助になればと思い、昨年 9 月末から着手し、急ピッチで完成に至りました。

本校では、来年度 4 月（平成 25 年）に中学 2 年生の教材として活用し、併せて多面的検証を行う予定をしています（また、何らかの形で報告できたらと思っています）。

4 その他

本教材の販売は「株式会社チクマ」が行います。

問い合わせ及び申込みは、服育ホームページ <http://www.fukuiku.net/> を御覧ください。

なお、私の経済的便益はありませんので、併せて報告しておきます。